

経営比較分析表（令和6年度決算）

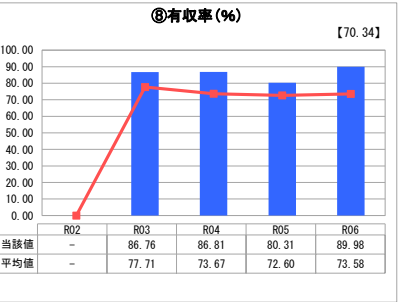
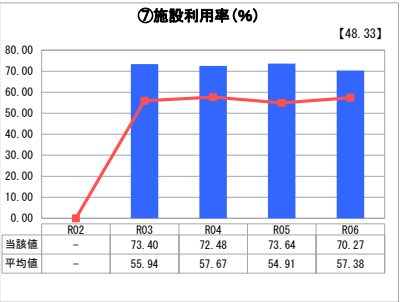
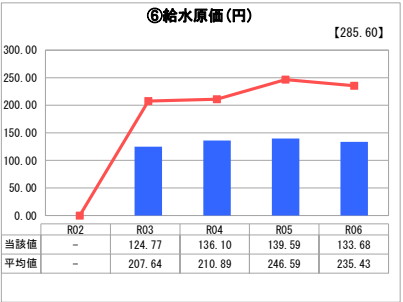
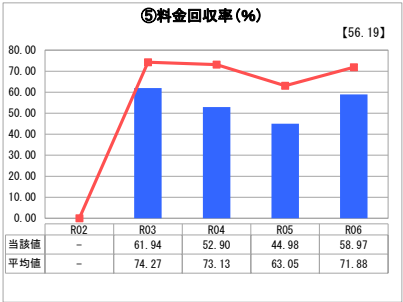
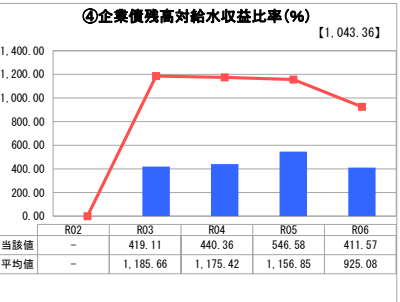
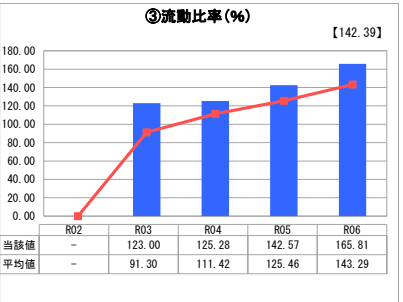
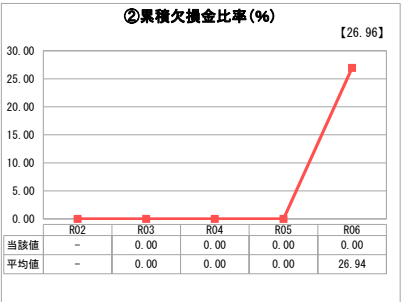
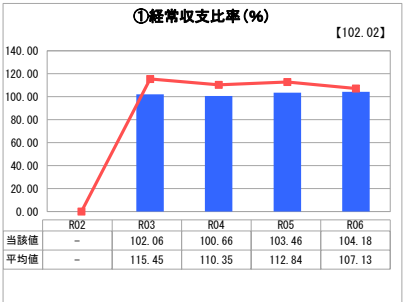
群馬県 沼田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡あたり家賃料金(円)	
-	62.63	43.74	1,540	

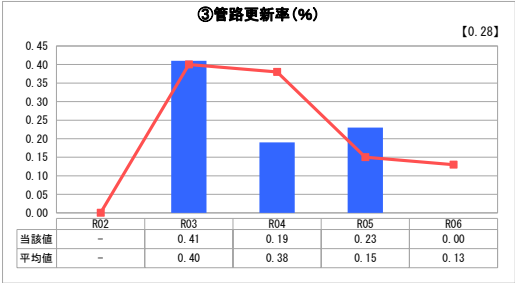
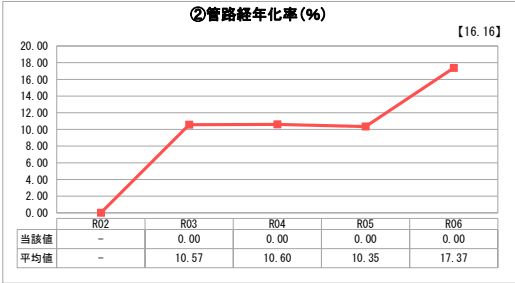
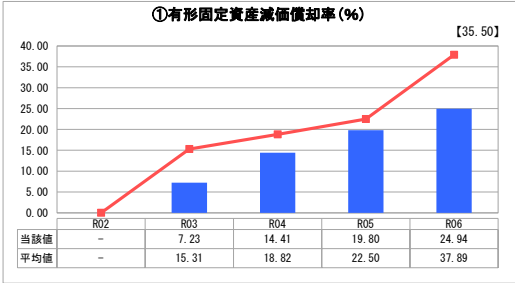
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
43,532	443.46	98.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,879	197.70	95.49

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①100%を上回っており、給水収益等の経常収益により、維持管理費等の経常費用を賄っている。前年度と比較しても同水準を維持しているが、今後の給水人口の減少に伴い水需要も減少し、収支の悪化が懸念されるため、費用削減や収益確保の取組を継続していく必要がある。

②経営の健全性が確保されている。今後も累積欠損金を発生させないよう、収支均衡を意識した経営を継続する必要がある。

③100%を上回っており、短期的な支払能力は確保されている。ただし、老朽化による突発的な修繕及び更新等の増加に対応できるような資金余力確保のため料金の改定等を検討する必要がある。

④類似団体と比較して低い水準にある。今後は、老朽化による更新投資にあたり企業債に過度に依存しないよう、料金をはじめ収益が増加する取組を計画的に実施する必要がある。

⑤今年度水道料金本料金減免を実施しなかったことにより増加した。しかし、100%を下回っているため、費用削減努力と料金の改定等を検討する必要がある。

⑥類似団体と比較して低い水準にある。今後の修繕費の増加により給水原価の上昇が見込まれるため、計画的な修繕を実施していく必要がある。

⑦類似団体と比較して高い水準にある。施設規模に対して実際の水需要がやや小さい状況にある。今後は人口減少等により改善は見込みにくいため、施設規模の適正化及び近隣簡水施設との統合を含めた検討が必要である。

⑧類似団体と比較して高い水準にある。今後も漏水対策や老朽管更新の取組を継続することで、施設稼働が収益により結びつくよう改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

①上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行していることを示している。法定耐用年数に近づいた資産が増加しており、将来的な更新需要は避けられない状況にある。

②低い水準にあるが、老朽した管路の漏水が年々増加している。漏水リスクや事故発生リスクを抑制するため、計画的な管路更新が必要である。

③低い水準であり、老朽化の進行に更新が追いついていない。今後は将来世代に過度な負担を先送りしないよう、優先順位を明確にした更新計画の見直しが必要である。

全体統括

本事業は、経常収支比率が100%を上回り、一定の経営の健全性を維持している。料金回収率について、令和6年度は水道料金本料金減免を実施していないため、給水収益が増加し料金回収率が回復したが、企業債残高の負担が中長期的な課題となる。

また、有形固定資産減価償却率や管路経年化率の上昇から施設の老朽化が着々と進行しており、更新需要の増加が避けられない状況にある。現状の管路更新率では、将来への負担の先送りにつながるおそれがあるため、計画的な更新が課題である。

今後は、経営戦略の定期的な見直しを行うと伴い水道料金の改定、施設更新の優先順位付けや規模の適正化を進める必要がある。併せて、施設の共同利用や維持管理の広域化等についても検討を進めることで、持続可能な事業運営を目指していく必要がある。